

若者の就職を支援

厚労省委託事業

サポートステーション開設

会場で利用
呼び掛け 月・水・金曜に相談受付

厚生労働省からの委託事業として、働くことについて悩みを抱える無職の15歳から39歳までの若年者の就職、就労を無料で支援する地域若者サポートステーション宮古・八重山が4月から、平良下里のNPO法人あらた内に開設された。毎週月・水・金曜日の午前10時から午後4時まで相談を受け付けている。実施主体であるサポートセンターゆめさき（北中城村）の仲松佐和子さんが17日に会見を開き利用を呼び掛けた。



サポートステーションの利用を呼び掛ける仲松さん（中央）と島尻さん（右）、花岡さん＝17日、平良下里のNPO法人あらた



4月から開設された地域若者サポートステーション宮古・八重山（平良下里のNPO法人あらた）

サポートステーション（サポステ）は現在、全国に約160カ所、県内では本島北部、中部、南部に各1カ所がある。

サポステは「宮古でも就職できない若年者や引きこもりの若年者や就業できない若年者やその家族の相談に応じるほか、公共職業安定所のように求人を紹介するだけでなく、カウンセリングや履歴書の書き方指導、面接の練習、コミュニケーション力をアップさせるセミナー開催、職場体験受け入れ事業所の紹介、パソコン指導など利用者が就職するために必要とするさまざまな支援を提供している。就職が決まっても1年間は経過観察を行い、職業定着のためのサポートなどを行う。

サポステ宮古・八重山は相談員を務める島尻郁子さんと花岡貴志さん（ともに会見を誘った仲松さん）は、本島のサポステでは年間約200人が利用し、日雇職が就職できている現状を説明。

明。課題としては「少ない若年無業者がいること」を挙げる。「会えないとサポステできない。二歩二歩、その人に合ったペースで、その人に合ったサポートをしていくので、サポステのことを広く知ってもらい、利用して就職につなげてほしい。まずは悩んでいる本人や家族に来てもらいたい」と利用を呼び掛けた。

島尻さんは「宮古でも就職を中絶してどうにも行けなくなっている子供がいるが、これまでも子供たちのための窓口があったと宮古でもサポステのニーズはあるとの考えを示した。

相談予約問い合わせはサポステ宮古・八重山（電話090-1010-3363）または住所は平良下里甲1-3-8の1ネクスコート21105号。

「黄金ソテツ」

平良東仲
市内民家で、葉が黄金に色付くソテツが観るを遊んでいる。その圧倒的な存在感が人目を引く。

「黄金のソテツ」と呼ばれる珍しい植物で、観葉植物としても人気が高い。謝敷茂さん（63）が自宅

“働きたい若者”を支援

NPO法人
あらた

サポートステーション開設

「地域若者サポートステーション宮古・八重山」が、このほど平良下里にあるNPO法人あらた（島尻都子理事長）内に開設された。17日に相談員の島尻理事長らが同所で会見し、働くことに悩みを抱える若者らへ「気軽に相談してほしい」と呼びかけた。写真＝

「地域若者サポートステーション」は働くことに悩みを抱えている15歳から39歳までの若者に対し、キャリアコンサルタントなどによる専門的な相談、コミュニケーション訓練、協力企業への就労体験など就労に

向けた支援を行う事業で、厚生労働省が全国の若者支援に実績や経験のある法人や団体などに委託している。同所では沖縄本島にある

「地域若者サポートステーション琉球」と連携しながら、仕事に就くことができ、前夜を支援し、家から出ることのできない人には訪問も行うという。

具体的には▽ジョブトレーニングなどの体験▽パソコン検定対策やコミュニケーションスキル、ビジネスマナーなどのセミナー▽個別相談▽職場体験・実習と資格取得などの集中訓練プログラムなどを無料で提

供することを予定している。就職してから1年間は経過を見ながら必要な支援を行う。

島尻理事長は「宮古には高校中退などで行き場のない子どもがいることを知っている。ぜひ相談に来てほしい」と呼びかけた。

沖縄本島でNPO法人サポートセンターゆめさき（宮城隆理事長）が展開するサポートステーション施設となり、島尻理事長と花岡貴子さんが相談員として支援にあたる。受付は月・水・金曜日の午前10時～午後4時。問い合わせは（72・1703）まで。

2月にわずかながら生存が確認されたため、絶滅から



島尻理事長ら（左から）が会見で話している。